

子育てについて
考えよう

「子育ての喜びを実感できる 社会の実現」を目指して

地域で子育て、あんしん子育て、企業も子育て



安心して子どもを生み、育てていくためには、地域みんなで子育てを応援することや、子育てしやすい環境づくりに、企業をはじめ社会全体で取り組んでいくことが大切です。県では、平成17年2月「地域で子育て、あんしん子育て、企業も子育て」をテーマに策定した「やまなし子育て支援プラン」に基づき、子育て支援を積極的に進めています。

Q&A

Q 少子化って何？
A 子どもが減ること。山梨県でも30年前と比較すると、1年間に生まれる子どもの数は、約85%になっています。

Q 子どもが減ったら、どうなるの？
A 人数が足りないため、サッカーや野球ができなくなるかもしれないかもしれません。クラス替えができない学校も多くなっています。育成会など地域の行事を維持することも難しくなり、子どもの育つ環境が心配です。

Q また、働く人が少なくなるため、年金などの社会保障制度の担い手が不足し、社会全体に大きな影響を与えることが心配されます。

Q どうして、子どもが減ってしまったの？
A 結婚しない人が増えたり、結婚するのが遅くなっていることに加え、子どもを持つことへの不安や負担感などから、子どもは少なくても良いと考えたり、子どもを持たない人も増えています。

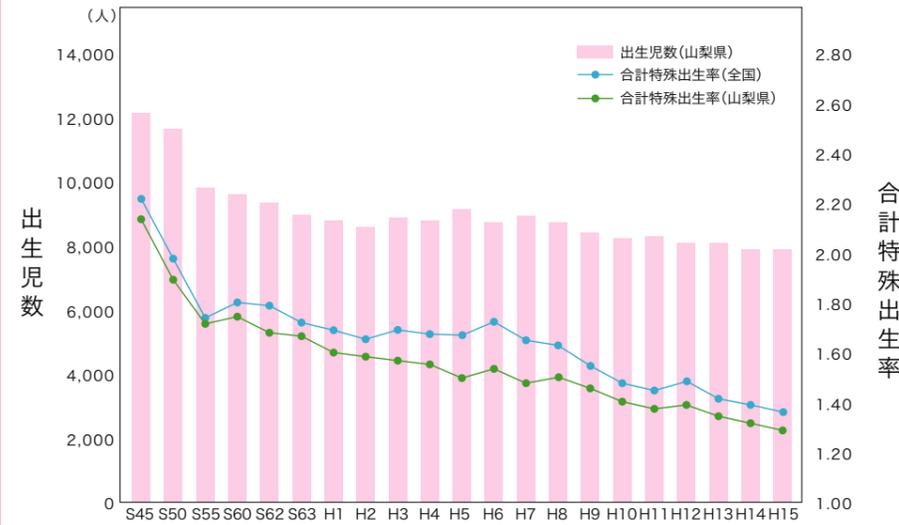
Q では、子どもを持ちたいと思う人が増えるようにするには、どうしたらいいの？
A 子育てにともなう不安や負担感を軽くし、安心して子育てに取り組める環境を整えることが重要です。

このため、県ではこの2月に策定した「やまなし子育て支援プラン」に基づき、「子育ての喜びを実感できる社会の実現」を目指しています。

Q 具体的には、どんなことをしていくの？
A プランには、289の事業を盛り込みさまざまな施策に取り組んでいます。特に重点的に取り組む事業を3つのプロジェクトにまとめました。

Q 3つのプロジェクトでは、何をやるの？
A まず、「地域で子育てプロジェクト」では、何を

出生児数及び合計特殊出生率の推移



合計特殊出生率：1人の女性が生涯に出産する子どもの数の平均を示す。昭和30年代後半から昭和40年代までは2人前後で推移し、昭和50年以降は2人を割り込んだまま減少傾向が続ぎ、平成15年は、全国1.29、山梨1.37まで低下している。

次に、「あんしん子育てプロジェクト」では、さまざまな不安や悩みを抱えている子育て中の家庭が、気軽に相談できるよう子育て相談総合窓口を設置したり、子育てにともなう幅広い情報を提供するため、ハンドブックやホームページなどを作ります。また、相談窓口の連携を図ったり、小児医療の充実を図り、安心して子育てに取り組める環境を整えます。さらに、「企業も子育て応援プロジェクト」では、企業経営者向けの「子育て支援セミナー」や「子育て支援を行う「子育て応援宣言企業」を募集するなどして、母親が安心して育児休業を取れたり、父親が家庭で子育てに参加できるよう企業にも働きかけを行います。

また、店舗等にベビーシートや授乳スペースの普及を図り、安心して外出できる環境づくりに努めます。このような取り組みによって子育てを支援していきます。

——子育ての今と昔ではどう変わってきているんでしょうか？

阿部 近くに自分の親がいたり、夫の家族と暮らしていたりという時代からはだいぶ変わってきていますね。近所が力を貸し合う地域社会の中で子育てができた時代と違い、子育てが難しくなった時代です。子育てが夫婦中心に、特にお母さん中心のスタイルがで上がってきた。昔はそばで手を貸してくれる人や不安であれば教えてくれる人がいたり、たくさん子どもがいれば上の子が面倒を見てくれたりと、あまりお母さんだけに負担がかからなかったんですね。今の時代に失ったものをどう補っていくかが子育て支援社会の基本的な捉え方だと思いますね。

——具体的にどのような支援が大切なのでしょうか。

阿部 幼稚園や保育園での時間の延長や、ファミリーサポートセンターなども重要ですが、どんなときにどこで預かってくれるかの情報を公的機関でまとめ、提供することも大切です。それからお母さんが孤独になるのが一番いけないことですから、小さいお子さんを持つたお母さん同士でグループを作り、一緒に遊ばせたり子どもを遊ばせたりする機会をもつことがとても大事になります。

安心して生み、育てられる社会を

子育て支援の意義と目的について、専門家である山梨県立大学 阿部真美子学部長にお話を伺いました。

そこに社会的支援の手を差し伸べ、場所を提供するなどの動きは山梨県は進んでいると思います。またお母さんも一人で抱え込まないで、上手に社会的支援を利用していくことが大事なことだと思いますね。

——これからの子育て支援は、どういうものが求められるんでしょうか。

阿部 安心して生み、育てられる社会というのはお母さんやお父さんにとって大事なことです。例えば企業では従業員の帰宅時間の定時化や、育児休暇の取得などを保障していく。これは個人のためばかりでなく、社会のためにやっていることだと認識してもらおう。そうしないと子どもにとって良い環境ができない。少子化社会だからということもあるんですが、人材を育成する上で重要なことだと認識してもらいたいです。

安心して子育てできる社会を保障していくのは公的機関の役割だと思っています。また、現在バラバラの機関がやっていることを、全体としてまとめていくことも大事です。子育て支援が共通のテーマとして語られて、大きな流れになって、それを上手にお母さんが利用できる社会でないといけませんね。

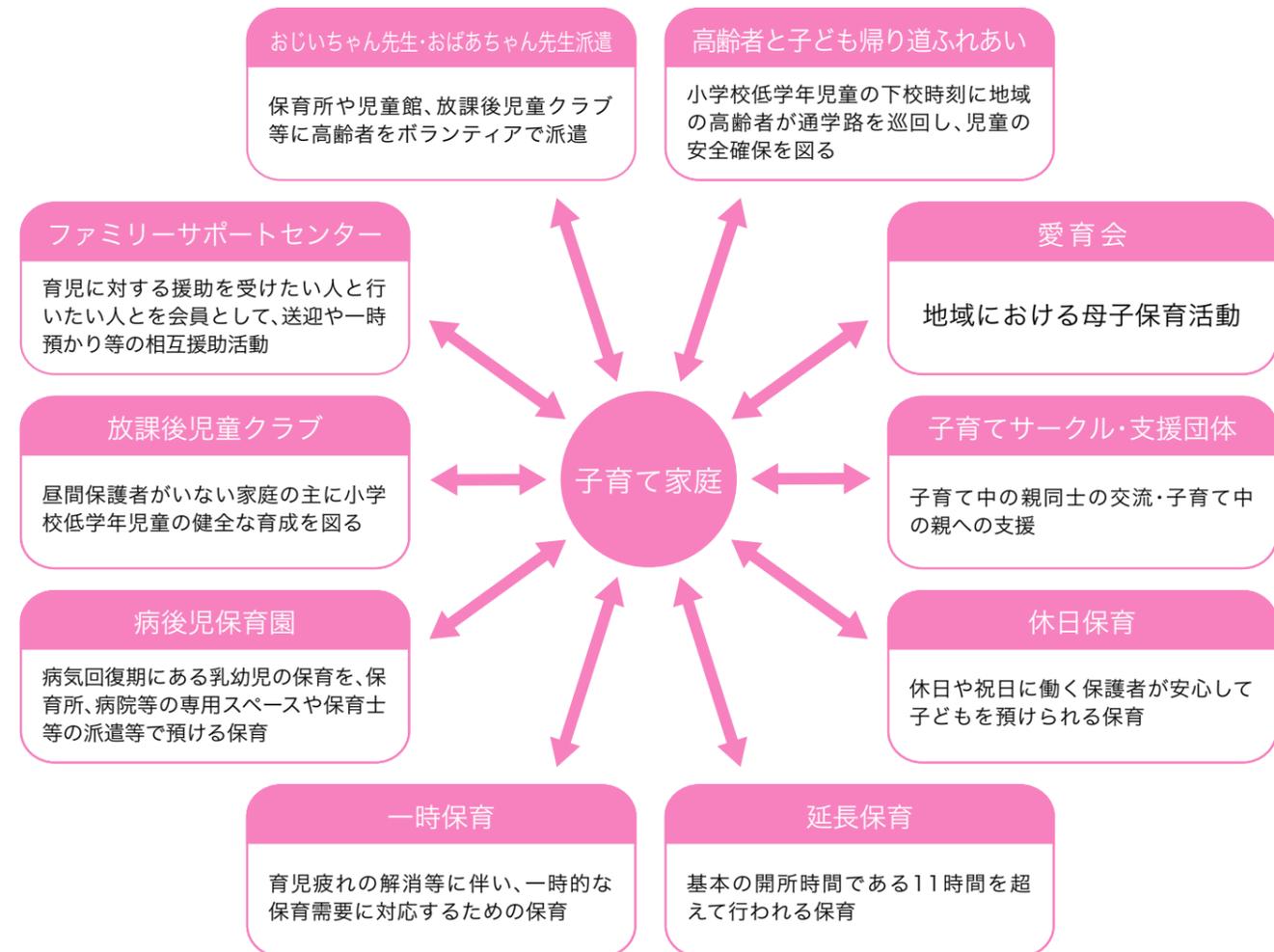
interview

山梨県立大学 人間福祉学部
阿部 真美子 学部長

あべまみこ / 幼児教育・保育を専門とする、人間福祉学部 (人間形成学科・福祉コミュニティー学科) 学部長兼教授

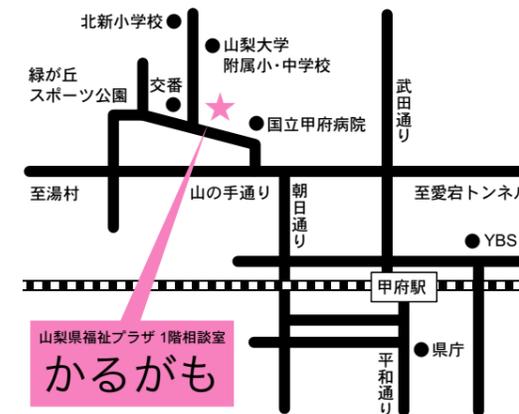


多様な子育ての応援体制



子育て相談総合窓口「かるがも」をご利用ください。

「かるがも」では、子育て中の方を応援するために、子育てに関する助言や情報提供を行っています。身体や健康面の不安や悩み、保育所・幼稚園や学校、友達関係に関すること、生活習慣や家庭環境に関すること、子どもへの親の関わり方など、一人で悩まずにお気軽にご相談ください。なお「かるがも」では、子育てサークルへの助言なども行っています。



面接相談場所: 山梨県福祉プラザ1階相談室

※ご相談の際は、事前にお電話をお願いします

カウンセリング: 月2回、臨床心理士によるカウンセリングを行っています。相談内容に応じてカウンセリングや専門的相談機関の紹介を行います。

電話相談・面接相談 / 日時 月～金曜日
午前10時～午後5時
(祝日・年末年始(12月29日～1月3日)を除く)

よい子に よい子さ
電話番号: 055-251-4152